

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-------|
| C - 11 | 子ども子育て課 | 子育て支援 |

| | | | | | | | | | | |
|----------|----------------|--|---|---------|-------|-----|--------|--------|--------|-----|
| 事務事業名 | 臼杵市にこここ保育支援事業 | | | | | | | 新規・継続 | | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名(施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名(施策コード) | | | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容(経緯) | 第2子以降の保育料に助成を行い多子家庭の子育てに対する負担を軽減する少子化対策事業(大分県独自事業)。認可保育所、認可外保育施設に通う3歳未満児で、第2子は半額、第3子は全額補助。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | こここ保育支援事業適用園児数 | 対象園児の人数 | 人 | 322 | 272 | 294 | 242 | 300 |
| | | ② | | | | | | | | |
| | | ③ | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保護者・児童 | 成果 | 経済的な事情で共働きとなる世帯が増える中、特に保育料負担が大きくなる多子世帯に対して補助を行うことで、経済的負担を軽減しています。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | こここ保育支援事業適用園児数 | 対象園児の数 | 人 | 322 | 272 | 294 | 242 | 300 | | |

| コスト | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
|---------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| 事業費+人件費 | 37,150 | | | 17,449 | | | 19,701 |

| 評価の視点 | 評価 | | 判断基準 | | 理由 | |
|----------|---|--|--|----------------------------|----|-------------------------|
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | | | | 保護者の保育料の負担軽減を図ることができます。 |
| | | A | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | | | |
| | | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | | | |
| A | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | | 多子家庭が子育てしやすい環境作りに役立っています。特に、第3子3歳未満児の保育料が無料であることは広く知られているため、保育所に預けやすくなったという声が寄せられています。 | | | |
| 効率性 | A | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | 多子家庭の経済的負担の軽減に直接的に効果があります。 | | |
| 事業の問題・課題 | 臼杵市は認可外保育施設第3子への助成もしており、県内でも進んでいます。今後も引き続き施策についての情報提供を行います。 | | | | | |
| 前年度の改善案 | 引き続き入所申込みでの説明時に、保育料の助成について情報提供し、必要な保育サービスを保護者が選べるようにしています。加えて、保育所を通じて保育料に係るQ&Aを配布することや、保育料に係る問い合わせに答えることで、保護者が求める情報を提供していきます。 | | | | | |
| 具体的な改善案 | 前年度からの改善案を継続し、保護者が求める情報を提供していきます。窓口配布用のパンフレットに保育料軽減の仕組みを詳細に記載し、随時窓口にて説明します。 | | | | | |

| | | | |
|------|---------------|----|--|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 | 本市では本事業の対象者を無認可施設利用者にも拡大し、保育料の保護者負担軽減を進めている為この事業については現状のまま継続します。 |
|------|---------------|----|--|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-------|
| C - 12 | 子ども子育て課 | 子育て支援 |

| | | | | | | | | | | |
|----------|------------------|--|--|-------|-------|-----|------------|------------|------------|----|
| 事務事業名 | 下南保育所指定管理委託事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | | |
| | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名 (施策コード) | | | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 公立保育所の運営・管理を社会福祉法人に指定管理委託し、効率的・専門的な運営と、保育の質の向上をはかっており、市が直営する場合と比較してコストを抑えることができます。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 公立保育所入所児童数 | 対象児童数 | 人 | 89 | 78 | 81 | 78 | 78 |
| | | ② | | | | | | | | |
| | | ③ | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保護者・児童 | 成果 | 通常の保育サービスだけでなく、民営の保育園では預かりが困難な児童も受け入れることができ、保護者の多種多様なニーズに応えることができます。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 公立保育所入所児童数 | 対象児童数 | 人 | 89 | 78 | 81 | 78 | 78 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 90,158 | | | 1,699 | | 12,405 | 76,054 |

| | | | | |
|----------|---|---|--|---|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | | 特別保育事業(延長保育、一時保育、障がい児保育)も実施しており、世帯の多様な就労状況等に合わせて児童の受け皿を確保しています。 |
| | | A | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | | 毎年度入所希望があり、安定した児童の受け入れが来ています。 |
| A | | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | | |
| 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | | 同規模の私立認可保育園と比較して、委託費(児童入所に係る人件費等の経費)が同程度となっています。 | |
| | A | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | |
| 事業の問題・課題 | 近年公立保育所への入所希望ニーズが高まっておりますが、入所定員を超過する場合には、市内私立保育園との均衡を図るため、実入所児童数が入所定員を下回る園等への入園を促しています。 | | | |
| 前年度の改善案 | 引き続き、他園と均衡を図りつつ、運営・管理についての指導を行っていきます。 | | | |
| 具体的な改善案 | 前年度からの改善案を継続し、保護者に適切な情報提供に努めます。 | | | |

| | | | |
|------|------------|----|---|
| 課長評価 | 重点化する(重点化) | 理由 | 下南保育所の運営については、保護者はもとより、地域にも支持されており、適切な運営がなされています。課題として、河川横に平成2年に改築の為、南海トラフの折には大変危険であると考えます。よって重点化し、高台への移転改築を目指したいと考えます。 |
|------|------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-----------|
| C - 13 | 子ども子育て課 | 子育て支援グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|--------------|--|--|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-----|
| 事務事業名 | | 子ども・子育て総合支援センター管理事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | ソフト・ハード | | | | | | | | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名(施策コード) | I-2-5 | 地域における子育て環境の充実 | | | | | | | |
| | 関連施策名(施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容(経緯) | 妊娠期から18歳までの様々な相談にワンストップで対応し、切れ目のない支援を提供するため、子どもから大人まで気軽に立ち寄れる、臼杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぼーと」を開設しました。平成27年度(28年1月)に開設した「ちあぼーと」を、より利用しやすい環境とするために、「ちあぼーと」の体制と施設の充実を図りました。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 「ちあぼーと」開所日数 | 年間開所日数 | 日 | | | 67 | 266 | 267 |
| | | ② | | | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保護者・児童 | 成果 | 施設的环境整備として、2階会議室のエアコン設置及び館内放送設備の設置等を行い、利用環境の充実を図りました。今年度、延べ13,187人が利用しました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | センター来所者数 | センター総利用者数 | 人 | | | 2,483 | 13,187 | 13,000 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 12,668 | | | | | | 12,668 |

| | | | | |
|----------|--|--------------------------|---|---|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | 親子が遊び等を通じて、自由に触れ合うことができる屋内施設は、ニーズも高く、利用者から好評を得ています。 |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | 自由に来所でき、子育ての困りや不安についても個別に相談できる施設として子育ての拠点として利用されています。 |
| | 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | 子どもや子育てに関する総合施設として、ワンストップ化が図られ、利用しやすい施設となっています。 |
| 事業の問題・課題 | H28.4から母子保健業務を統合し、乳幼児健診等実施したことで一定程度「ちあぼーと」の周知は図ることができました。今後は、ワンストップで対応するため、関係機関等との連携をさらに深め、子どもに関することは「ちあぼーと」という、さらなる体制の充実を図ることが必要です。 | | | |
| 前年度の改善案 | 28年度から母子保健業務を行う為、妊娠期からの18歳までの切れ目のない支援が充実します。また、月4回行われる乳幼児健診や5歳児健診を「ちあぼーと」で実施することで、市民に周知が進みます。 | | | |
| 具体的な改善案 | 「ちあぼーと」の充実を図るため、特に関係の深い教育委員会、福祉課との連携強化のため、職員のスキルアップ、定期的な情報交換、研修等を実施することが必要とされます。 | | | |

| | | | |
|------|------------------------|----|---|
| 課長評価 | 重点事業であり、引き続き継続する(重点継続) | 理由 | 公的な施設で、保育士や子育て支援コーディネーターが配置され、子育て親子が安心して過ごせることや、個別相談室で落ち着いた各種の相談ができるので好評です。また家庭児童相談員やひとり親自立支援員、臨床心理士など相談支援体制も充実しています。 |
|------|------------------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-----------|
| C - 14 | 子ども子育て課 | 子育て支援グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|----------------------------|--|---|-----------------------------|--------|--------|--------|---------|--------|-----|
| 事務事業名 | | 地域子育て支援拠点事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名(施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名(施策コード) | | | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容(経緯) | 地域の子育て支援機能の充実を図り、子育てで不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することを目的に、乳幼児およびその保護者が気軽に集い、相互交流をおこなう場所を開設し、子育てについての相談・情報提供・助言・その他援助を行うものです。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 子育て支援「あのね」行事 | リズム遊び、料理教室等、プログラムの立案・企画・実施 | 回 | 165 | 158 | 160 | 162 | 162 |
| | | ② | ウスキッズ 行事 | 工作、ベビーマッサージ等、プログラムの立案・企画・実施 | 回 | 57 | 80 | 85 | 80 | 80 |
| ③ | よいこのへや、子育て支援センター 一時預かり事業 | 様々な理由で一時的に家庭保育が困難となる場合の子どもの預かり | 人 | 250 | 209 | 249 | 379 | 450 | | |
| ④ | 地域子育て支援拠点従事者連絡会及びスキルアップ研修 | スキルアップ研修や、各拠点等の取組についてグループワークを実施 | 回 | | | | 2 | 3 | | |
| 事業対象 | 乳幼児及びその保護者(乳幼児期の子育てに関わる家族) | 成果 | 市内4拠点の代表者連絡会や、スタッフの研修を行うことで、子どもの個性に沿った子育て相談に応じることが可能となりました。また、転入者向けの子育て支援講座を開催し、各拠点の特色を紹介しました。年間延べ15,002人の親子が拠点を利用しました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 利用者数(4か所) | 拠点を利用する親子の総数 | 人 | 13,429 | 18,761 | 17,927 | 15,002 | 26,080 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 42,328 | | 12,174 | 12,174 | | | 17,980 |

| | | | | |
|-------|-----|--|---|--|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | A | 目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | 在宅で保育する親子が、他の親子とふれあい、様々な体験をすることで、子どもの発達を促すとともに、親の子育ての孤立化を防ぐことができるため、必要性は高いと考えられます。 |
| | 有効性 | A | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | 子育て中の親子が在宅ではできない活動に参加でき、子育て相談も受けられるため、有効性は高いと考えられます。 |
| 効率性 | B | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | 転入者も多く、核家族化が進み、子育ての孤立化が懸念されるため、他の子育て親子とのふれあいを通し、ママ友の輪を広げることができるとともに、育児相談の場としての利用もでき効率的です。ただし、転入者や第1子出産後の方で、最初の第1歩が出ず、興味があっても参加できていない状況もあるため改善の余地があるといえます。 | |

| | |
|----------|--|
| 事業の問題・課題 | 第一子を持つ保護者や転入者は拠点事業の存在を知らなかったり、知っているも場所が分からず参加できないなどの実態は変わらずあります。また、各拠点の特色などがわからず、参加できずにいたり、保護者が人見知りで参加できないなどもあるため、相手の状況に応じた対応など、個別性のある関わりも必要になってきたといえます。 |
| 前年度の改善案 | ちあぼーとが開所され、あそびの広場を広報の場として活用しています。子育て支援コーディネーターが拠点の事業一覧を作成し、掲示とともに周知しています。 |
| 具体的な改善案 | 28年度は4拠点で連絡会を設け、互いの情報交換やプログラムの内容など利用促進に向けての工夫を共有し、それぞれ活動に活かしています。また、スタッフのスキルアップ研修として、「ペアレント・プログラム」を学んでいただき、日々の活動に役立てていただきます。さらに、拠点の場所や事業に対し、サービスのニーズや認知度を、健診時などにアンケートなどを活用し、定量的に把握します。 |

| | | | |
|------|---------------|----|---|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 | 子育て中の保護者にとって必要な支援の場になっています。しかし課題として誰でもが行きやすい場所、繰り返し行きたくなる場所であるよう、拠点の運営者やちあぼーとで協力し、運営を工夫し合っていくことが必要です。 |
|------|---------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-----------|
| C - 15 | 子ども子育て課 | 子育て支援グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|------------------|---|---|--------------------|-------|-----|------------|------------|------------|----|
| 事務事業名 | | 障がい児保育補助事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名 (施策コード) | I-2-5 | 地域における子育て環境の充実 | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 障がい児を受け入れている保育所が、障がい児の処遇の向上を図るために必要な知識・経験等を有する保育士の加配等を行う場合にかかる経費に対し、補助金を交付するものです。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 障がい児数 | 保育所入園している障がいのある児童数 | 人 | 3 | 10 | 9 | 10 | 10 |
| | | ② | | | | | | | | |
| | ③ | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保育所(園) | 成果 | 保育所に対し、障がい児の処遇を向上させるため補助を行うことにより、障がい児の受け入れ態勢の充実が図られました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 障がい児受入施設数 | 保育所(園)数 | 園 | 3 | 6 | 6 | 7 | 7 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 3,021 | | | | | | 3,021 |

| | | | | |
|-------|--------------------------|--|---|--|
| 評価の視点 | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | 判断基準 | 理由 |
| | A | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | | 地域の保育所に通所し、他児と日常触れ合うことで、児童の心身の安定を図れるとともに、その保護者の日常生活における育児疲れの解消も図れるため、必要性が高いと言えます。 |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | 臨床心理士による巡回支援により、加配につく保育士の支援を実施しており、児の特性を的確に捉え、より具体的な保育活動につなげることができており有効性も高いと言えます。 |
| 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | 助成をしていることで、保育士雇用の一助になっており、障がい児の受け入れが進んでいます。しかし複数の障がい児を受け入れる環境づくりのために、補助額の増額の検討も必要です。 |

| | |
|----------|--|
| 事業の問題・課題 | |
| 前年度の改善案 | 障がい児保育を実施する保育園を支援する為、事業の周知に努めました。また、園巡回訪問時に保育士と臨床心理士との意見交換を行い、保育の質の向上につなげることができました。昨年度と比較して対象児童の成長が見受けられました。 |
| 具体的な改善案 | 本事業実施施設に対し、対象児童の状況等に応じて臨床心理士の支援を年1回から2~3回程度に増やし、加配保育士の支援とスキルアップを実施します。 |

| | | | |
|------|---------------|----|--|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 | 発達障がい等さまざまな障害を持つ子ども達が、同年齢の子どもと共に生活し、お互いに支え合う環境づくりを支援する為、保育所での加配保育士確保のための助成は必要です。 |
|------|---------------|----|--|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-----------|
| C - 16 | 子ども子育て課 | 子育て支援グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|----------------------|---|---|----------------|--------|--------|------------|------------|------------|---|
| 事務事業名 | | 特別保育事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名 (施策コード) | | | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 保護者の就労の有無や形態によって必要とされる保育サービスを提供するために、一時預かり、延長保育などの各種特別保育事業を整備しています。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 一時保育できる認可保育園数 | 一時保育できる認可保育園の数 | 箇所 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| | | ② | 休日保育できる認可保育園数 | 休日保育できる認可保育園の数 | 箇所 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| ③ | 延長保育できる認可保育園数 | 延長保育できる認可保育園の数 | 箇所 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保護者、就学前の子ども | 成果 | 通常の保育サービスに加え、保護者のニーズに応えることができ、育児疲れの軽減や就労支援に繋がるサービスが提供できました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 一時保育、休日保育、延長保育の利用児童数 | 延べ利用児童数 | 人 | 22,246 | 22,693 | 24,243 | 22,450 | 22,650 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 14,497 | | 3,828 | 3,828 | | | 6,841 |

| | | | | |
|----------|---|---|--|--|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | | 保護者の就労の有無、就労形態に合わせて保育サービスが提供できるため、必要性が高いと思われます。 |
| | | A | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | | 延長保育や休日保育を実施することで、保護者が育児と仕事の両立をするのに有効です。一時保育は、急病や冠婚葬祭だけでなく育児疲れにも利用でき、虐待防止等にも効果があります。 |
| A | | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | | |
| 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | | 市の単費事業として継続しています。また、広報誌への定期的な掲載を行うことでより適正な利用を呼びかけます。 | |
| | B | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | |
| 事業の問題・課題 | 保育所地域活動事業については、各園の内容について精査が必要です。保護者の状況にあった保育サービスの情報の提供を行っていく必要があります。 | | | |
| 前年度の改善案 | 保育所地域活動事業の内容の精査および補助額の見直しを行います。保育サービスの情報提供について、周知方法に改善の余地があると思われるため、広報誌への定期的な掲載を行うことで、より一層の周知を図ります。 | | | |
| 具体的な改善案 | 引き続き保育所地域活動事業の内容の精査および補助額を見直しを実施します。保育サービスの情報提供については、まだ周知方法に改善の余地があると思われるため、ちあぼーとのあそびの広場等も活用し広報誌への定期的な掲載を行うことでより一層の周知を図ります。 | | | |

| | | | |
|------|---------------|----|---|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 | 就労している保護者にとって延長保育や休日保育、就労していない保護者には一時保育など、保育所の様々な保育サービスは子育て世代の支援として必要です。しかし地域活動への助成については平成29年度中に実施内容について一度見直し、より地域の課題に対応するものにしていただくよう今後の方向性を探っていきたくと考えます。 |
|------|---------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-----------|
| C - 17 | 子ども子育て課 | 子育て支援グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|------------------|--|--|--------|-------|---------|------------|------------|------------|-----|
| 事務事業名 | 病児・病後児保育事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | | |
| | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | | | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名 (施策コード) | I-2-5 | 地域における子育て環境の充実 | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 臼杵市在住の0歳から小学校6年までの児童を対象に、病気の為に集団生活が困難な場合や保護者が看護できない場合、保護者に代わり保育・看護を行う事業 今年度、病児・病後児保育事業の実施要綱の改正を行い、利用料を軽減し、より利用しやすい体制となりました。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 新規登録者数 | 新規登録者数 | 人 | 102 | 115 | 99 | 110 | 110 |
| | | ② | 更新登録者数 | 更新登録者数 | 人 | 68 | 147 | 168 | 196 | 230 |
| | ③ | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保護者・児童 | 成果 | 利用料(給食費、おやつ代込み)を減額(1日目2,000円を1,500円、2日目以降1,800円を1,000円)したことでより利用しやすい制度となった。 延べ利用者数の推移：H25：797人、H26：844人、H27：994人、H28:1,338人 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 延べ利用者数 | 延べ利用者数 | 人 | 797 | 844 | 994 | 1,338 | 1,192 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 19,540 | | 6,319 | 6,319 | | 目以降1,000円 | 6,898 |

| | | | | |
|----------|---|--|--|---|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | | 親の就労や急用で病気の乳幼児や児童を看護することができない場合に、医師の常駐している病児・病後児保育室があることは、安心して子どもを預けられる |
| | | A | A：適応している B：一部適応していない C：適応していない | |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | | 平成23年度の開設以降、年々利用者も増え、利用者のニーズもあり有効な事業である |
| A | | A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない | | |
| 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | | 今年度利用者が急増し、夏風邪やインフルエンザ等の感染症流行期には、定員超過により断らざるを得ない状況もあり、定員を増やせる環境を整えるなど、改善の余地がある | |
| | B | A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない | | |
| 事業の問題・課題 | 連続利用やリピーターによって利用者の延べ人数が増加、また徐々にではあるが、新規登録者も増加傾向にある。親の就労が理由でなくとも、病児保育は利用可能であるため、病児保育事業利用に関する正しい情報提供が必要であるといえる。 | | | |
| 前年度の改善案 | 窓口、あそびの広場、地域子育て支援拠点事業での情報提供を行っています。 | | | |
| 具体的な改善案 | 来年度は、施設整備を予定しており、受け入れ定員数も増加可能となる。 | | | |

| | | | |
|------|------------------------|----|--|
| 課長評価 | 重点事業であり、引き続き継続する(重点継続) | 理由 | 感染症の流行及び利用料の軽減、病児保育の周知が進んだ事などで、近年利用者が増加し子育て支援の一助になっています。平成29年度は重点事業として、病室の増築、感染症の拡大を防ぐため病室に陰圧機の整備を実施します。 |
|------|------------------------|----|--|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|-------|
| C - 18 | 子ども子育て課 | 子育て支援 |

| | | | | | | | | | | |
|----------|--------------|---|--|----------|-------|-------|--------|---------|--------|-------|
| 事務事業名 | 放課後児童クラブ事業 | | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名(施策コード) | V-12-29 | 学校と地域、家庭の連携の推進 | | | | | | | |
| | 関連施策名(施策コード) | | | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容(経緯) | 保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校の児童に対し、放課後等に適切な遊び場及び生活の場を与え、その保護及び健全育成を図ります。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 放課後児童クラブ開設数 | 学校区ごとの開設 | 校区 | 9 | 9 | 10 | 11 | 11 |
| | | ② | 全学校数 | 市内の小学校 | 校 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 |
| | | ③ | 登録児童数 | 登録児童数 | 人 | 6,669 | 6,600 | 7,376 | 7,513 | 7,500 |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 保護者・児童 | 成果 | 福良ヶ丘小校区での新規開設により、13校区中11校区で開設となり、子育て支援事業計画で策定した計画値を達成することができました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 放課後児童クラブ設置率 | 全学校区に対する設置率 | % | 69.23 | 69 | 77 | 85 | 85 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 72,314 | | 23,666 | 22,007 | | | 26,641 |

| | | | |
|-------|-----|--|--|
| 評価の視点 | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | 理由 両親ともに就労している家庭も増え、必要性は高いと言えます。 |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | 放課後等に適正な遊び及び生活の場を提供し、児童を安心してあずけることのできる場所として効果を得られています。 |
| | 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ない | 利用する保護者や児童の状況を踏まえ開所時間等の見直しを行いながら事業を進めます。 |

| | |
|----------|--|
| 事業の問題・課題 | 子ども子育て支援法により施設の基準が厳格化されたことに伴い、今後平成32年3月31日までに基準の準拠が必要となるため、クラブの分割等による施設整備が必要になるが、少子化の動向も見極めたうえでの検討が必要です。 |
| 前年度の改善案 | 要望のあった校区に、放課後児童クラブの設置をめざし、福良ヶ丘小児童クラブの開設準備を実施しました。 |
| 具体的な改善案 | 老朽化の進んでいる施設について来年度改修予定です。 今後、登録児童数の多い児童クラブの分割等、少子化の動向を見極めながら、施設整備を検討していきます。 また、支援員に県等の研修受講を推進し、必要な知識を習得することでクラブの質の向上を図ります。 |

| | | |
|------|---------------|---|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 13小学校区中11校区で児童クラブの整備ができました。児童クラブのない佐志生小、下ノ江小についても再度保護者との話し合いが必要です。また新制度において、児童クラブの質の充実が求められています。地域の実態に合わせた運営の工夫が必要です。 |
|------|---------------|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|----------|
| C - 19 | 子ども子育て課 | 母子保健グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|----------------------|---|--|---------------------------|--------|--------|------------|------------|------------|---------|
| 事務事業名 | | 子ども医療費助成事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名 (施策コード) | I-2-5 | 地域における子育て環境の充実 | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 子どもの医療費を助成することにより、疾病の早期発見と治療を促進し、子どもの保健の向上を図ることを目的に事業を実施しました。また、平成27年7月からは小・中学生の通院医療費についても助成対象としています。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 医療費助成額 | 医療費助成額 (現物給付・未熟児・償還払い) | 千円 | 70,171 | 72,616 | 84,784 | 111,555 | 101,027 |
| | | ② | | | | | | | | |
| | ③ | | | | | | | | | |
| | ④ | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 医療費助成の対象となる子どもを持つ保護者 | 成果 | 子どもの疾病の早期発見と治療を促進し、保護者の経済的負担軽減もできました。助成額111,555千円(小・中学生通院医療費分39,775千円) | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 医療費助成件数 | 医療費助成延件数 (現物給付・未熟児・償還払い) | 件 | 38,410 | 38,336 | 47,903 | 60,268 | 54,580 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 117,400 | | | 28,776 | | | 88,624 |

| | | | | |
|----------|---|--------------------------|--|--|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | 乳幼児期や子どもの予期せぬ入院における医療費負担は家計に占める割合が高いため、必要性は高く、少子化対策や子育て支援策には重要であると思われます。 |
| | | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | |
| | 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | 保護者の医療費の負担軽減になります。また、子どもの疾病の早期発見や、治療の促進につながっています。 |
| 事業の問題・課題 | 子どもへの医療費助成制度は全国の市町村で実施されています。県内では大分県の補助事業として実施されていますが、市町村の独自事業として自己負担を軽減していたり、助成対象を拡大している状況です。子ども医療助成制度は、社会保障制度として、どこに住んでも同じサービスが受けられるような仕組みが必要と考えます。 | | | |
| 前年度の改善案 | 医療費の動向を注視しながら、医療機関でのかかり方・制度の説明等を様々な機会を通じて実施します。 | | | |
| 具体的な改善案 | 制度の周知や適正受診につながるようなPR等を資格者証発行時や市報を通じて実施します。 | | | |

| | | | |
|------|------------------------|----|---|
| 課長評価 | 重点事業であり、引き続き継続する(重点継続) | 理由 | 医療費助成については、制度の安定的な運営のためにも、引き続き適正受診の普及啓発が必要です。 |
|------|------------------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|----------|
| C - 20 | 子ども子育て課 | 母子保健グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|------------------|---|----------------|--|-------|-----|-----|------------|------------|-----|
| 事務事業名 | | 乳幼児健康診査（母子保健事業） | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | ソフト・ハード | ソフト |
| | 関連施策名 (施策コード) | I-1-2 | 身体と心の健康づくり | | | | | | | |
| | | I-2-5 | 地域における子育て環境の充実 | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 乳幼児健診を集団として実施する他、発育発達に遅れのある児や育児不安がある保護者に対して訪問、5歳児健診・発達相談会を開催し、妊婦・乳児には医療機関での健診もできるよう、受診券を交付しました。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 乳幼児健康診査受診率 | 4か月・10か月・1歳6か月・3歳6か月健診対象者における受診者数の割合 | % | 89 | 91 | 90 | 90 | 95 |
| | | ② | 乳幼児健康診査受診者数 | 4か月・10か月・1歳6か月・3歳6か月 | 人 | 955 | 958 | 803 | 779 | 850 |
| | ③ | | | | | | | | | |
| | ④ | | | | | | | | | |
| | 事業対象 | 満4か月児、満10か月児、満1歳6か月児、満3歳6か月児ならびにその保護者 | 成果 | 平成28年度は3歳6か月健診での視能訓練士による視力検査を導入することで健診精度が向上し、14件の医療機関受診に繋げることが出来ました。 | | | | | | |
| | 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | 3歳6か月児健診受診率 | 対象者における受診者数の割合 | % | 88 | 92 | 90 | 92 | 94 | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 29,410 | | | | | | 29,410 |

| | | | |
|----------|---|--------------------------|----|
| 評価の視点 | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | 理由 |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | |
| | 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | |
| 事業の問題・課題 | ①健診受診率の低下(野津地域での受診者の減少) ②未受診者への受診勧奨と状況把握 ③むし歯対策(H26年度より1歳6か月児、3歳6か月児健診にてフッ素塗布券の交付を実施。H28年度は歯科衛生士を増員し個別指導を強化。) ④乳幼児期からの生活習慣病対策(臼杵市は生活習慣病の有病率が県内第2位と生活習慣病を発生している割合が高い。生活習慣病は、生活習慣の積み重ねから発症するものであり、乳幼児期から生活リズム、食習慣を整えていくことは重要である。) | | |
| 前年度の改善案 | ①、②医療機関での受診や保育園に通っているとの理由により集団健診の未受診が増加傾向にある。健診の目的や有用性についてPRし、健診の受診勧奨、魅力ある健診を企画し、市報などの媒体をととして広報。未受診者に対しては、健診後即日、電話での受診勧奨、訪問等により未受診者の状況把握。③乳幼児健診から歯科個別指導の徹底。1歳6か月児健診、3歳6か月児健診にてフッ素塗布券を配布し、フッ化物塗布の普及啓発④3歳6か月児健診における視力検査の実施方法を検討する。⑤各健診時における発達段階に応じた生活リズムの指導の強化(個別指導の徹底) | | |
| 具体的な改善案 | ①、②医療機関での受診や保育園に通っているとの理由により集団健診の未受診が増加傾向にある。健診の目的や有用性についてPRし、健診の受診勧奨、魅力ある健診を企画し、市報などの媒体をととして広報。未受診者に対しては、健診後即日、電話での受診勧奨、訪問等により未受診者の状況把握。③乳幼児健診から歯科個別指導の徹底。1歳6か月児健診、3歳6か月児健診にてフッ素塗布券を配布し、フッ化物塗布の普及啓発④各健診時における発達段階に応じた生活リズムの指導の強化(個別指導の徹底) | | |

| | | | |
|------|------------------------|----|---|
| 課長評価 | 重点事業であり、引き続き継続する(重点継続) | 理由 | 健診受診率は前年度より低下し、目標値には届いていません。未受診者の実情把握を行うと共に、実施方法やフォロー体制についての検討が必要です。また「ちあぼーと」での健診実施になって野津地域の方も臼杵会場で受診する方が増え、野津会場で参加者が激減しています。野津開催について検討が必要です。 |
|------|------------------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|----------|
| C - 21 | 子ども子育て課 | 母子保健グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|---------------|---|---------------------------------|------------------------------------|-------|------|--------|---------|--------|----|
| 事務事業名 | 不妊治療費助成事業 | | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名(施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名(施策コード) | | | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容(経緯) | 不妊治療を受けている夫婦の経済的負担の軽減を図り、子どもを生みたい方が生めるような環境づくりを推進するため、治療費の一部を助成します。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 人工授精治療費助成 | 費用助成を行った件数 | 件 | 0 | 0 | 4 | 21 | 22 |
| | | ② | 特定不妊治療費助成 | 費用助成を行った件数 *H25、H26は市に申請があった分のみ | 件 | 12 | 11 | 11 | 21 | 22 |
| | ③ | | | | | | | | | |
| | ④ | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 不妊症で不妊治療を望む住民 | 成果 | 県が助成を行っていない人工授精についても費用助成を行いました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 不妊治療による妊娠率 | 費用助成を行い妊娠まで至った比率 | % | 25.0 | 36.3 | 20.0 | 11.9 | 15.0 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 2,567 | | | | | | 2,567 |

| | | | | |
|----------|---|---|---|--|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | | 平成27年10月より不妊治療の助成を拡充しました。不妊治療は保険適用外であり、治療を受けるには経済的な負担がかかります。 |
| | | A | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | | |
| B | | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | | |
| 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | | 費用の助成を拡充したことで、不妊治療が受けやすくなります。 | |
| | A | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | |
| 事業の問題・課題 | 年齢が上がるにつれ、妊娠率が下がってくるため、なるべく若いうちに治療に取り掛かってもらうことが課題です。 | | | |
| 前年度の改善案 | 経済的な負担を軽減し、若い人でも治療に取り掛かりやすい環境をつくる必要があります。 | | | |
| 具体的な改善案 | 市のホームページや子育て携帯サイト、市報等で不妊治療費助成制度について周知し、制度を知って頂き、治療に取り掛かりやすい環境を整備しました。 | | | |

| | | | |
|------|---------------|----|---|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 | 相談者にはなるべく若いうちから効果的な特定不妊治療に取り掛かってもらうよう、促していく必要があります。 |
|------|---------------|----|---|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|----------|
| C - 22 | 子ども子育て課 | 母子保健グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|--|--|--|----------------------|-------|-----|------------|------------|------------|----|
| 事務事業名 | | 母子教室関係事業 | | | | | 新規・継続 | 継続 | | |
| | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名 (施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名 (施策コード) | I-2-5 | 地域における子育て環境の充実 | | | | | | | |
| | | I-1-2 | 身体と心の健康づくり | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容 (経緯) | 妊娠期から夫婦で産後の心身の健康への意識づけや仲間づくり、子育てについてのアドバイスを聞けるなどを目的とした教室、学齢期を中心に生活習慣病予防教室を実施しています。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | 妊婦教室（プレパパ・プレママセミナー）の参加者数 | プレパパ・プレママセミナー参加者の実人員 | 人 | 33 | 23 | 21 | 20 | 35 |
| | | ② | 生活習慣病教室を実施した小・中・高校数 | 生活習慣病教室を実施した小・中・高校数 | 校 | 3 | 4 | 4 | 4 | 11 |
| | ③ | | | | | | | | | |
| | ④ | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 白杵市内に住んでいる支援の必要な母子と将来親となる児童及び妊婦 | 成果 | 教室開催を通じて、母となる妊婦への情報提供と継続的な関わりが必要な母子の心身の状況に応じて支援を行いました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28 実績値 | H31 計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | 1歳6か月児健診、3歳6か月児健診の問診で子どもと一緒にいると楽しいと答えた母の割合 | 1歳6か月児健診、3歳6か月児健診の問診で「子どもと一緒にいると楽しいですか？」の質問に「はい」と答えた母の割合 | % | 95 | 92 | 95 | 96 | 100 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 4,577 | | | | | | 4,577 |

| | | | | |
|-------|--------------------------|---|---|---|
| 評価の視点 | 評価 | 判断基準 | | 理由 |
| | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か | | 妊娠期から夫婦で参加できる教室を開催することで産後の育児生活に対しての不安軽減でき、楽しんで子育てができます。生活習慣病予防対策により生活習慣の改善を促すこともでき、食の情報に氾濫した現代で、身近に食や命の大切さを考える授業の必要性は大きいです。 |
| | | A | A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | |
| 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか | | 就業している妊婦さんも多く歯科受診の機会も少ないため、教室内容に歯科検診を実施し参加することで妊娠期からの齲歯予防や母の歯周病予防もできる。教育委員会の栄養教諭とクラス担任と3者で授業を行うことで生活習慣病予防の授業を学校が有効的に取り入れることができます。 | |
| | A | A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | | |
| 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか | | 教育委員会の栄養教諭もクラス担任も保健師も生活習慣病予防という同じ目的で事業を実施しないといけないため、3者一緒に同じ授業を分担して行うことで、日程も取れやすく、児童にもわかりやすい授業が提供できるようになっています。 | |
| | A | A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | |

| | |
|----------|--|
| 事業の問題・課題 | 今年度初めてプレママプレパパをちあぼーとの土曜日開所日に実施したところプレパパの参加者も見られましたが、参加者数は少なめでした。子育て支援拠点施設等と連携した事業実施も考慮し、参加者を増やす必要があります。 |
| 前年度の改善案 | プレママプレパパセミナーを周知し、参加者数の増加を目指します。 教育指導主事より校長会で教室の紹介をしてもらい、実施校増加を目指します。 |
| 具体的な改善案 | プレママプレパパセミナーを周知するとともに、他機関との連携により参加者数の増加を目指します。 栄養教諭とクラス担任と保健師の3者で授業を行う新たな取り組み内容を教育指導主事より校長会で紹介してもらうことで、実施校増加を目指します。 |

| | | | |
|------|------------------------|----|--|
| 課長評価 | 重点事業であり、引き続き継続する(重点継続) | 理由 | 支援の必要な保護者や児が増えている現状もあり、育児の喜びを共有できる取組みの強化が必要です。 |
|------|------------------------|----|--|

| 番号 | 課名 | グループ名 |
|--------|---------|----------|
| C - 23 | 子ども子育て課 | 母子保健グループ |

| | | | | | | | | | | |
|----------|--------------|---|---|--------------------|-------|-----|--------|---------|--------|----|
| 事務事業名 | | 予防接種事業 | | | | | | 新規・継続 | 継続 | |
| | | | | | | | | ソフト・ハード | ソフト | |
| 総合計画との関連 | 主要施策名(施策コード) | I-2-4 | 安心して産み育てるための支援 | | | | | | | |
| | 関連施策名(施策コード) | I-1-2 | 身体と心の健康づくり | | | | | | | |
| 基本項目 | 事業内容(経緯) | 予防接種法による定期予防接種及び行政措置による一部任意予防接種の費用助成を行うことで、子どもの健やかな成長促進を図ります。 | | | | | | | | |
| | 行動指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | |
| | | | | | H25 | H26 | H27 | | | |
| | | ① | はしか・風疹接種率(二期) | 対象人口における予防接種実施人数比率 | % | 96 | 98 | 95 | 97 | 98 |
| | | ② | | | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 事業対象 | 市民(主に乳児から児童) | 成果 | 感染症を予防することにより、健康維持、重篤者や障がい・死亡を防ぐことができました。 | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標名 | 説明・算式・引用 | 単位 | 実績の推移 | | | H28実績値 | H31計画値 | | |
| | | | | H25 | H26 | H27 | | | | |
| | はしか発生件数 | はしか発生件数 | 件数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |

| | | | | | | | |
|----------------|-----------|----|-----------|----------|--------|-----------------|----------|
| コスト 事業費+人件費 | フルコスト(千円) | 内訳 | 国庫補助金(千円) | 県補助金(千円) | 市債(千円) | 使用料・手数料・その他(千円) | 一般財源(千円) |
| | 82,232 | | | | | | 82,232 |

| | | | | |
|----------|---|--|------|---|
| 評価の視点 | 必要性 | 目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない | 判断基準 | 理由 |
| | 有効性 | 目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない | | 予防接種法に基づき実施します。 |
| | 効率性 | 行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない | | 個別接種なので都合の良い時に医療機関で受けられ、接種できる機会が増えたため接種率が上がっています。 |
| 事業の問題・課題 | 予防接種に対する偏見や宗教的な理由等で未接種の方がいます。MR(麻しん風しん混合ワクチン)予防接種の接種率については、計画値を98%としており、郵送や電話での勧奨を年5回していますが、国の目標である接種率95%をこらうじて達成している状況です。 | | | |
| 前年度の改善案 | 予防接種の効果や必要性の周知啓発を行い、接種率を上げていきます。MR(麻しん風しん混合ワクチン)予防接種に関しては引き続き、未接種者に対し個別に接種勧奨をしていきます。 | | | |
| 具体的な改善案 | 予防接種の効果や必要性の周知啓発を行い、接種率を上げていきます。MR(麻しん風しん混合ワクチン)予防接種に関しては引き続き、未接種者に対し勧奨の効果上げるため、その方法についても工夫、改善をしていきます。また、任意予防接種のB型肝炎・流行性耳下腺炎については、子どもの健やかな成長を促進するため、費用助成を継続し、その旨周知していきます。 | | | |

| | | | |
|------|---------------|----|---|
| 課長評価 | 現状のまま継続する(継続) | 理由 | はしか・風疹接種率は国の目標である95%を毎年クリアできるよう、未接種者の状況把握に努めながら、電話等による積極的な接種勧奨を継続していく必要があります。 |
|------|---------------|----|---|